

2018年12月8日

京都教区 共同宣教司牧ブロック
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

2019年 司教年頭書簡

教会の《もてなし》の使命

～国籍をこえた神の国をめざして～

2019年の年頭書簡と司教の教会訪問の趣意書

1. 2018年の教区テーマ

来年の年頭書簡のテーマは、難民移住移動者について取り上げてみました。

ここ数年、日本は外国人旅行者が急増し、全国各地で外国人と日常的に出会う時代となりました。2020年には東京オリンピック・パラリンピックを控えています。グローバル化が進んだ現代は世界的な移住の時代であり、移住現象は「時のしるし」と言えます。この50年で世界の移民は約3倍に増加し、2億人を超える移住者が母国以外で暮らしています。この移住問題に取り組むため、国際カリタスの呼びかけで、マイグレーションキャンペーン「Share the journey」（日本では「排除 ZERO キャンペーン ～国籍をこえて人々が出会うために～」）が実施されています（2017年9月27日～2019年9月まで）。

京都教区においても、ベトナム、フィリピンの技能実習生が小教区のミサに参加するようになりました。わたしたちは今まで以上に多国籍多文化の共同体づくりについて深く考え、積極的に行動する時だと思い、来年の年頭書簡のテーマを難民移住移動者をとしました。

最初に、聖書の中での外国人に対するおきてを確認し、次に京都教区のこれからの教会共同体づくりについて、基本的ないくつかの精神について、述べてみたいと思います。

なお、日本カトリック司教協議会の社会司教委員会の「国籍を越えた神の国をめざして」2016年改訂版を時報1月号に掲載しますので、合わせてお読みください。

2. 2019年の ~~テーマ~~

来年は、サブタイトルの「国籍をこえた神の国をめざして」にちなんで、国際ミサや、国際ファミリーのような集いをブロック（または地区）で企画し、司教が参加して、日本人信徒と外国人信徒とともに過ごしたいと思います。

~~3. 2019年 司教訪問の日程~~